

# 平成27年度事業報告

## I. 総括

平成27年度は、本会の役員改選が行われ、新会長はじめ役員一同が気持ちを新たに「スポーツ王国秋田」の復活を目指し始動した。

競技力向上対策を「選択と集中」方式により実施したほか、生涯を通じた豊かなスポーツライフづくりを目指し、加盟団体及び関係機関・団体と連携して各種事業を積極・効果的に推進した。

競技スポーツ関係では、「強化戦略チーム」が高等学校強化拠点校を中心に訪問し、戦力分析や激励・相談等を行ったほか、競技団体との意見交換を行った。

わかやま国体では、天皇杯順位30位台前半の目標には及ばなかったが、前回大会の42位から38位と僅かながら順位を上げた。

国体における少年種別の得点が低迷している中、平成27年度から高等学校強化拠点校として新たに13校を指定し2期目がスタートした。

生涯スポーツ関係では、全国初となる全市町村参加の「チャレンジデー2015あきた」を宣言し、総合型地域スポーツクラブが主体的に参加した。

## II. 事業内容

### 1. 競技スポーツ事業

【4,687千円】

(1) 第66回県民体育大会の運営に必要な経費の一部を助成した。

40競技 7,992名が参加

### 2. スポーツの競技力向上及び普及等に関する事業

【105,113千円】

#### (1) 競技力向上対策事業

①スポーツドクター、トレーナーによるスポーツ医・科学的サポート等を実施した。

ア. 国体選手・指導者のメディカルチェック及びサポート

メディカルチェック（身体検査・採血検査） [6月27日、11月28日]

イ. 国体への帯同ドクターの派遣（本大会3名、冬季大会3名）

ウ. ドーピング防止講習会の開催 [9月4日]

エ. 公認スポーツドクター研修会の開催（日体協主催） [7月5日]

②東北総合体育大会・国民体育大会に選手団を派遣した。

ア. 第42回東北総合体育大会（岩手県） [8月21日～23日（主会期）]

エントリー数 36競技 894名が参加

イ. 第70回国民体育大会本大会（和歌山県） [9月12日～22日（本大会）]

エントリー数 29競技 382名が参加

[結果] 天皇杯38位（774.5点） 皇后杯38位（414.0点）

\*第70回国民体育大会報告会の実施 [11月19日]

ウ. 第71回国民体育大会冬季大会スケート・アイスホッケー競技会（岩手県）

[スケート 平成28年1月27日～31日]

エントリー数 1競技 19名が参加

[結果] 天皇杯 28位 (21.0点) 皇后杯 24位 (11.0点)  
エ. 第71回国民体育大会冬季大会スキー競技会 (岩手県)

[スキー 平成28年2月20日~23日]

エントリー数 1競技 87名が参加

[結果] 天皇杯 3位 (128.0点) 皇后杯 3位 (41.0点)

◎冬季大会 [スケート・スキー競技] 総合成績

天皇杯 9位 (149.0点) 皇后杯 14位 (52.0点)

③秋田県高等学校強化拠点校制度等による選手育成・強化

ア. 秋田県高等学校強化拠点校

14競技、拠点校 13校

拠点校の激励・戦力分析の実施

監督会議の実施 [4月16日]

イ. 中学生強化選手の指定・研修

選手の指定 6月27日 15競技 64名

11月28日 7競技 46名

資質・競技力向上研修 (フィジカルトレーニング、宿泊研修等) の実施

[8月29日~30日、11月21日、平成28年1月11日]

④テクニカルアドバイザー等を配置し、競技力向上を図った。

テクニカルアドバイザー (11名) ジュニア育成アドバイザー (2名) を配置

ゼネラルアドバイザー・強化専門員が強化拠点校を中心に戦力分析・激励・意見交換

⑤社会人チームを支援するなど社会人スポーツの強化を図った。

国体等で活躍する社会人スポーツ選手の競技力向上のための支援

国体選手を採用する企業に対する補助制度の創設を県に要望

(2) スポーツの普及・振興を図るため広報活動を実施した。

①機関誌「スポーツ秋田」(3回 9月、12月、平成28年3月 各2,000部)

②スポーツ関連情報をホームページで発信

(3) スポーツの普及を図るため、加盟団体が実施したスポーツ事業に助成した。

地域団体等 28件

(4) 体育・スポーツの振興に顕著な功績があった者を顕彰した。

①秋田県スポーツ賞表彰 [平成28年2月26日]

功労賞 7名、榮譽賞 3名、生涯スポーツ賞 1名

栄光賞個人 32名・団体 19、奨励賞個人 3名・団体 1

②人見スポーツ賞表彰 [平成28年3月25日]

個人の部 成田 翔 (高校野球)

団体の部 秋田北鷹高校スキー部女子チーム

- ③ 畠沢国体賞表彰 [平成28年3月25日]  
個人の部 小林 快 (陸上競技)  
多胡島 伸佳 (レスリング競技)  
団体の部 秋田県成年女子バドミントンチーム

- ④ 辻ジュニアスポーツ大賞表彰 [平成28年3月25日]  
個人の部 本田 千佳 (スキー競技)  
団体の部 田代中学校相撲部

- (5) 人見スポーツ傷害基金を活用し、傷害防止対策事業を実施した。  
研修会の実施、啓発ポスター、チラシの作成  
死亡弔慰金の給付 該当なし

- (6) 競技団体が実施する競技会等を共同主催、後援した。  
共同主催 2件 (県体、東北総体)  
後援 81件

### 3. 生涯スポーツ振興事業

【24,380千円】

- (1) 総合型地域スポーツクラブの育成、自立に係る指導・助言をした。

- ① 総合型クラブの普及・啓発  
新規創設クラブ 2 (育成状況 72クラブ)

- ② 総合型クラブ連絡協議会事業

ア. 総合型クラブ地区交流会の開催

県南地区クラブ交流会：9月5日 参加者106名

県央地区クラブ交流会：10月24日、参加者86名

県北地区クラブ交流会：11月15日、参加者98名

イ. 総合型クラブ全県交流大会の開催 [11月22日 潟上市 参加者240名]

ウ. ヒューマンエラー防止研修会の開催 (日体協主催) [10月16日 参加者64名]

- ③ チャレンジデーへの参加促進

5月27日 県内全市町村で実施。 総参加者数 約53万8千人

- (2) スポーツ指導者養成のため講習会、研修会を実施した。

- ① 指導者養成講習会

[空手：9月6日・26日、10月11日、11月3日、 参加者 22人]

[山岳(クライミング)：8月8日・9日・22日・23日、 参加者 21人]

- ② 指導者研修会

[5月17日、秋田市 参加者 84名]

[11月23日、秋田市 参加者 116名]

- (3) スポーツ少年団の競技別交流大会や、リーダー養成の研修会を実施した。  
また、海外青少年と交流し友好と親善を深めた。

①交流大会

- ア. 第52回秋田県スポーツ少年大会（仙北市、7月31日～8月2日）
- イ. 第38回秋田県スポーツ少年団大会（各地、6月～平成28年3月、9競技）
- ウ. 東北ブロックスポーツ少年団競技別交流大会（4県で開催、7月～3月、4競技）

②リーダー養成（随時開催）

- ア. リーダー総会（秋田市、5月10日、指導者5名、団員11名）
- イ. ジュニアリーダースクール（仙北市、7月31日～8月2日、55名）
- ウ. リーダー研修会（仙北市、7月4日～5日、指導者3名、団員8名）  
（秋田市、10月18日、指導者3名、団員12名）
- エ. リーダーのつどい（秋田市、3月21日、指導者5名、団員19名）

③海外交流事業

- ア. スポーツ少年団日独スポーツ交流事業  
〔受入：7月31日～8月17日 能代市 9名〕

④スポーツ少年団モデル育成事業

- 北秋田市、潟上市、横手市においてスポーツ交流会を実施

**（4）スポーツ少年団認定員の養成講習会等を開催したほか、スポーツ少年団の育成・指導に顕著な功績があった者を顕彰した。**

①認定員養成講習会 7地区 1,307名認定

②認定員等再研修会 3地区 178名参加  
（うち1回50名は、スポーツ少年団指導者研究協議会を兼ねて実施）

③スポーツ少年団顕彰事業

- 功労者12名、優秀指導者4名、優秀単位団9団、優秀母集団3団

④スポーツ少年団広報普及事業

- ア. 広報誌「スポーツ少年秋田」（年2回 各2,900部）
- イ. 「スポーツ少年団の現状」（年1回 1,100部）

**4. 収益事業**

**【6,350千円】**

**（1）自主財源確保のため、飲料水等の販売を行った。**

①自動販売機事業（18施設 86台設置）

- ・事業収入 8,635千円

②スポーツ立県キャンペーングッズ販売事業（ポロシャツ等）

- ・事業収入 22千円

### Ⅲ. 財政基盤の確立及び組織の充実

#### 1. 財政の確立

##### (1) 賛助会員の募集

- ①法人 86 団体            ②個人 21 名
- ・受取会費 965 千円

##### (2) 寄附金の募集

- ①法人 131 団体            ②個人 46 名
- ・寄附金総額 9,074 千円

- ②特定寄付金 1,000 千円

秋田プロバスケットボールクラブ（株）からの、バスケットボールの普及・振興等のための寄附

#### 2. 組織の充実

(1) 新たに「強化戦略チーム」を設置し、高校強化拠点校を中心に戦力分析・激励等を行った。

(2) 専門委員会審議を効率的に行うため、8専門委員会を4専門員委員会に統合した。